

分野別 分析表

分類A：不利益取り扱い
 分類B：合理的配慮の欠如

(浜家連 差別事例アンケート)

分野： ⑨ その他

分類区分	分類内容	件数	共通分類		事例	コメント	対策
			A	B			
901	統合失調症だとほとんどの生命保険、傷病保険の加入を拒否される。障害を理由とした不利益的取扱い。	2	2	2	・生命保険等に加入を希望したが、統合失調症の方は加入できないと断られた。	生命保険は民間の営利事業なので、生命保険会社の損得判断で加入条件を決めることは自由であるが、精神障害者が健常者と比較して極端に短命であることの実証はない。精神障害者の生命保険、傷病保険への加入を認めている会社もあるので、保険加入を認めない条件設定は偏見による不利益的取り扱いで差別である可能性が高い。	保険会社は、精神障害との理由で加入を拒否する理由を公に説明し、かつ、個別にもどうしても加入が無理である場合は、その理由を加入希望者が納得するまで説明すべきである。
902	精神障害者は世間から差別的な目で見られる一方、普通に働けないため障害年金が必要なことは理解してもらえない。	4		3	・友人に自分は精神障害をもっていると言っても全くわかってもらえずに「普通じゃないの」と言われた。 ・友人に障害があつて働けないから年金をもらっているといたら「いいなあ～、自分ももらいたい」と言われた。	精神障害者の多くは「障害が見えない」ために、周囲から障害の苦勞を理解してもらえずに「無意識による差別」を受けやすい。	その場の説明で精神障害を理解してもらうのは難しい。長い時間を要するが、教育や啓発活動により、社会的に精神障害者に対する差別をなくす風土を作り上げていくことが必要である。行政がそのような施策を積極的に実施する必要がある。
903	家族自身および当事者自身に精神障害に関する偏見があり、乗り越えるのに苦勞する。	3			・当事者の姉が結婚するに際し、相手の男性と両親に言うか言わないか、言うとした場合にどう説明するか悩み、懸念したが、結局は杞憂で終わった。(知人に同じ病状の方がいて、理解をえられた)。	精神障害者の家族は、社会の無理解を先取りして内なる偏見を持ってしまう場合が多い。障害を隠して生きようとする家族の姿勢が偏見による差別からの脱却を妨げる。	その場の説明で精神障害を理解してもらうのは難しい。長い時間を要するが、教育や啓発活動により、社会的に精神障害者に対する差別をなくす風土を作り上げていくことが必要である。行政がそのような施策を積極的に実施する必要がある。
904	精神病は遺伝すると言われて結婚できなかった。非科学的差別。	1	1		・病気は遺伝するといわれ結婚できなかった。強い気持ちがあれば克服できたのだが？ 偏見差別は深いよ……。	精神障害は遺伝と無関係ではないが、単純に遺伝的に決定されるわけではなく、環境との相互関係が強く影響される。そのため精神疾患の発症メカニズムは明らかになっていないにもかかわらず、精神障害者の結婚に対する偏見は根強いものがあり差別を生んでいる。	その場の説明で精神障害を理解してもらうのは難しい。長い時間を要するが、教育や啓発活動により、社会的に精神障害者に対する差別をなくす風土を作り上げていくことが必要である。行政がそのような施策を積極的に実施する必要がある。
905	文章サークルで精神病についての文章を提出したら、手直しされた。偏見による差別	1	1	1	・文章サークルで精神病について私なりの文章を提出したのですが、あまりにも露骨すぎると言われて、手を入れられてしまいました。病気の事はその時に「40年前と世間は変わっていない」実感しました。	文章サークルのような文化活動の中にも精神障害をオープンにして語ることへの偏見がある。	その場の説明で精神障害を理解してもらうのは難しい。長い時間を要するが、教育や啓発活動により、社会的に精神障害者に対する差別をなくす風土を作り上げていくことが必要である。行政がそのような施策を積極的に実施する必要がある。

区分	分類内容	件数	A	B	事 例	コメント	対 策
906	医療の教育を受けている者にも精神科医療の現実を回避しようという無意識の差別がある。	1			・医療系の学校の学生が病院実習先を選ぶのに精神科の閉鎖病棟がない病院を選ぶと聞いた。	精神科の閉鎖病棟の必要性については議論の余地があるが、現実には医療処置としての閉鎖病棟や拘束などが実施されていることが多い。医師を目指す学徒が現実を直視しようとしないうちは、重症の精神障害者の医療を避けようとする差別である。	精神科の閉鎖病棟入院や拘束の医療的処置は、基本的人権の観点から理想的にはないことが望ましい。海外ではそれに替わる医療・福祉の可能性を模索する試みも行われているが、国際的な主流にはなっていない。医療の教育においては現実を直視して現状の医療に取り組むと共に、より人権を尊重した医療の開発にも取り組む人材の育成が必要である。
907	図書館に精神障害に関する本が少ない。	1		1	・病気のこと等について、もっと知りたいと思った時、図書を自分で買わなければならない。	収入の少ない精神障害者が、図書館で精神疾患について調べたいと思っても本はなく、自分で購入しなければならない。その上、書店にもこの分野の本の在庫が十分でなく、取り寄せ依頼しなければならない場合が多い。そうすると気が引け、結局、読みたい本が手に入らない。	他の分野の本と同じように一般の図書館に置くように行政からの指導を望む。 他方、障害者団体などが関連図書の購入を進め、必要の都度会員などに貸し出す「図書館事業」を行うべきである。
908	親の介護が必要なとき精神障害者に適切な支援がないことの指摘。	1		1	・差別ではないのですが、両親が亡くなってからも心配はもちろんです。介護が必要になった時に病気を持っている子に介護が無理だと思えば、その方が気になります。	実際に差別があるわけではないが、精神障害者の生活が家族の負担で支えられている現状で、親の介護と障害者のケアとを両面で支援する福祉が保障されない近い将来への不安の表明である。弱者の切り捨てという差別の予感が当たらないとは言い切れない。	弱者の切り捨てが起こらないように、社会保障が隅々までいきわたるような行政施策の実施が必要である。
909	精神障害者への対応の仕方に戸惑うことの指摘。	1			・兄が当事者でひとり暮らし。妹の私は毎日顔を出し、対外的なことは私がしていますので、私の見る限りでは差別を感じることはありませんが、相手の方がどのように対応したら良いのか戸惑っているようです。	アンケート回答者は差別を感じないと書きながら、「障害のことを、皆に正しく理解してもらえよう、当事者の家族、福祉の行政機関などが、社会に働きかけることが必要だと思います。」と改善提案している。地域の住民の誰もが障害者を戸惑うことなく受け入れることができていない現実の指摘であり、あからさまには目に見えない差別が感じられる。	精神障害を理解して地域で自然に受け入れてもらうのは難しい。長い時間を要するが、教育や啓発活動により、社会的に精神障害者に対する差別をなくす風土を作り上げていくことが必要である。行政がそのような施策を積極的に実施する必要がある。
999	差別とは断定できない	1					
	合 計	16	4	8			